



## 第27回 日本看護診断学会学術大会のご案内

上野 栄一 (福井大学)

### 【大会テーマ】看護過程のプロセスとしての看護診断

大会長 上野 栄一 福井大学

実行委員長 松浦 純平 奈良学園大学

皆様お疲れ様です。第27回日本看護診断学会学術大会大会長を拝命いたしました福井大学の上野です。

新型コロナウイルス感染症の影響下、ご尽力いただいている、医療、介護、教育、福祉の関係者の方々に敬意を表します。さて、第27回日本看護診断学会学術大会は、奈良で開催いたします。本大会テーマを「看護過程のプロセスとしての看護診断」としました。現在、日本は少子高齢化が進み、地域包括ケアシステムの構築が進み、病院完結型から地域完結型医療へのシフトが始まっています。さらにIT、AIの進歩も急速に進み、遠隔医療そして多職種連携が重要性を増してきています。データの共有が今求められています。看護の専門用語の標準化も進み、NANDA-Iをはじめ、看護実践用語標準マスター、ICF（国際生活機能分類）、CTCAE（有害事象共通用語基準）、ベーシックアウトカムマスター、ICNP（看護実践国際分類）などがありますが、その中で、看護診断は、13領域の枠組みの中に身体的側面、心理的側面、社会的側面、保健医療行動的側面の診断名が多数あり、これからの多職種連携のなかで使える標準用語としても期待できると思っています。看護診断の良さは看護実践を客観的に記載できますので、看護を形式知として伝えることができるメリットがあります。看護診断の重要なところはアセスメントです。いかによい情報を得てアセスメントをして看護診断に結びつけることが重要です。特に看護師独自の介入が必要な時は、正確な情報を得て、看護の視座で問題を明確化し、診断名で表現することで、診断に基づいて計画、ケアを実施、評価する。この一連の流れのなかでは、アセスメントが重要になります。なお、12月末より演題登録を開始する予定です。

本学会では、看護診断を取り入れることの意義や看護

診断の魅力について発信できる学会にしたいと思っています。現在企画委員一同、詳細なプログラム案を作成中です。

皆様のご参加をお待ちしております。

\*新型コロナウイルス感染症の状態をみながら、開催方式を来春には決定する予定です。

第27回 The 27th Annual Meeting of Japanese Society of Nursing Diagnosis  
in NARA

# 日本看護診断学会 学術大会

2021  
7/17(土)・18(日)

会場 / 奈良学園大学 登美ヶ丘キャンパス  
〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目15-1 TEL:0742-95-9800(代)  
アクセス: 梅田より60分、なんばより46分、京都より55分、三重より65分、奈良より20分

大会長: 上野 栄一 (福井大学 学術研究院 医学系部門 看護学講座 基礎看護学)  
実行委員長: 松浦 純平 (奈良学園大学 保健医療学部 看護学科)

【主催】 日本看護診断学会 奈良看護診断学会 学術大会実行委員会 奈良看護診断学会 奈良看護診断学会 奈良看護診断学会 奈良看護診断学会  
【事務局】 〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目15-1 奈良学園大学 保健医療学部 看護学科  
TEL:0742-95-9800 FAX:0742-95-9850 E-MAIL:jsnd2021@naragakuken-u.jp  
【連絡事務局】 〒910-8018 福井県福井市森田1丁目1-14 福井新聞5(5)階9F503室  
TEL:0776-257201 FAX:0776-257202 E-MAIL:jsnd2021@right-stuff.biz

詳しくはこちら ▶ <https://right-stuff.biz/jsnd2021/>

演題募集期間 2020年12月24日(木)～2021年2月17日(水)

第26回 日本看護診断学会学術大会 2020 11/29(日) ※2週間程度のオンライン配信も予定しております。

日本型看護診断の夜明け - 日本の臨床に根差した看護診断の創成 -  
詳しくはこちら ▶ <http://www2.issj.jp/jsnd2020/>

会場: オンライン開催に変更となりました。  
大会場: 泉津 文字 (奈良看護医療大学 看護学部看護学科 教務)  
実行委員長: 神谷 千鶴 (奈良看護医療大学 看護学部看護学科 教授)

会 期: 令和3年7月17日(土)、18日(日)  
会 場: 奈良学園大学 登美ヶ丘キャンパス  
〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目15-1  
アクセス: 梅田より60分、なんばより35分、京都より55分

## 日本看護診断学会 第27回学術大会プログラム

大会長講演：上野栄一（福井大学）：看護過程のプロセスとしての看護診断

理事長特別講演：長谷川智子（福井大学）：看護診断の思考のプロセス

特別講演：中木高夫（日本看護診断学会名誉会員）：これからの看護診断

特別講演：宇津由美子（鹿児島大学）：介入の根拠を科学する 効率化をめざす看護の現場

～だからこそ看護の現任教育を見つめよう～

特別講演：浅見 洋（石川県西田幾多郎記念哲学館）：看護と哲学—看護における診断とは何か—

教育講演：江川隆子（関西看護医療大学）：～看護の専門性を追求するために：看護診断に求められるもの～

教育講演：西田直子（京都先端科学大学）：ヘンダーソンと看護過程の展開

教育講演：樋口耕一（立命館大学）：テキストマイニングと看護

他：特別講演、交流集会、シンポジウムなどを予定しています。



## 日本看護診断学会 第26回学術大会を終えて



学術大会長 奥津文子（関西看護医療大学）

2020年年11月29日から12月13日の2週間に渡り、日本看護診断学会第26回学術大会を、初のオンラインで開催させていただきました。700人を超える皆様にご参加いただき、盛会のうち終了

することが出来たこと、会員各位のご協力・ご助力のお蔭と、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

本学会は昨年夏より本格的に準備を開始し、メインテーマを「日本型看護診断の夜明け—日本の臨床に根ざした看護診断の創造—」と設定しました。日本の看護の現状を鑑み、日本型看護診断がどのように生み出され、どこに向かっていくのかについて、参加者の皆様とディスカッションしたいと考えたからです。プログラムも、東京大学：大西弘高先生による「臨床推論」についての特別講演や、教育講演として関西看護医療大学学長：江川隆子先生『質の高い看護実践のために—今、改めて看護師の責任を問う—』、岐阜県立看護大学学長：黒江ゆり子先生『日本型「看護診断」誕生の道程とこれから』、さらに若手研究者によるシンポジウムや組織管理に携わる看護部長の皆様によるパネルディスカッションも企画しました。

素晴らしい学術大会になること間違いなし！と企画委員の面々の意欲も最高潮に達したころ、新型コロナウィルス感染拡大による緊急事態宣言の公示です。企画委員

会は悩んだ末、対面での開催を断念しオンライン開催へ方向転換すべく、理事会に諮りました。オンラインによる開催が、決定したのは7月。その後、私たち企画委員にとっては初めての挑戦の日々、苦闘の毎日が始まりました。収録方法はどうすればいいのか、参加者とのディスカッションはどのように、・・・手探りでとにかく前進するしかない、という気持ちで取り組んで参りました。そんな中急遽、新型コロナウィルス感染症対策分科会 会長の尾身 茂先生に「コロナ禍における看護師の役割」についてのご講演をお引き受けただけことは、本当に幸運でした。ご登壇いただいた先生方や参加登録して下さった皆様には、ご心配をお掛けし、不透明で理解しにくい状況にお付き合いいただきました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

しかし「学術大会の内容は、素晴らしかった」と、多くのお褒めの言葉を頂きました。看護現象を理論的に理解することの意義と難しさ、またそれを用語にすることの重要性、さらには今後私たち看護師が看護の高みに向かい進むべき方向性について、初心に戻って検討しなおすことのできた学術大会であったと思います。

今回のオンライン開催は、色々な意味で今後の礎になる取り組みでした。これからも新たな感染症との戦いは、繰り返されるでしょう。それに屈することなく、実り多い対面での学術大会、それに加えオンライン学会での創意工夫など、看護診断に関するディスカッションの場がさらに充実したものへと発展していくことを願うばかりです。

## 学術大会に参加して

関西看護医療大学 倉田 紀美子



私が看護診断の学習を始めたのは、2003年、看護学校の専任教員をしていた時です。2007年に退職、その後ハンドブックを開くことはなかったのですが、埃にまみれた「NANDA 看護診断 2003

—2004」は、私の貴重な、懐かしい財産として、本棚にありました。初めて使ったこのハンドブックには、研修会でのまた実習でのメモがいっぱい書かれています。しかしこの頃私は、日常使っている言葉と看護診断の区別ができず、また日本人に適應するの？と疑問に思う看護診断もあり、よくわからないまま使っていたようです。

「非効果的治療計画管理」は、在宅での問題であり、日常生活に組み入れる。あえて病院で使う場合は、リスク状態とし、原因を見つけると書いています。「靈的苦悩」？信仰心の

ない私には、よくわかりませんでした。

「NANDA-I第11版」には、この2つの診断名はありませんでした。看護診断は、確かな根拠のもと、削除・改変・追加が行われ、現在は244。日本では、日本の看護実践に活用しやすい看護診断を、また看護援助技術の開発を進めていました。

学術大会先生方の研究は、明快で、その内容にワクワクしました。特に、治での療技術セミナーで身体可動性障害に対するケア技術セッションに参加したときは、看護治療技術が身近なところで進められていることを知り、私も、患者さんの症状緩和のために治療技術開発に取り組みたいと、意欲が湧いてきました。そして、看護診断を使っている看護師の皆さんに、治療技術の開発の重要性和研究成果を発信していきたいと考えています。

## 初めての日本看護診断学会学術大会への参加

秋田大学 武藤 諒介



「看護診断」とは何か。初めに会長講演の中で問いかげられ、何も答えられない自分がいた。今回、初めて日本看護診断学会学術大会に非会員として参加させていただいたのは、web学会により

参加しやすい、という単純な理由からであった。看護教員となり2年目。臨床で働いていた頃はNANDA-I看護診断は「教科書」として臨床で役立つ便利なもの、くらいに思っていた。現在、看護教員として看護診断を教える立場になり、いかに浅はかな知識でこの教科書を使用していたかがよくわかる。看護診断を開発してきた歴史や一つ一つの診断名や概念等の

今後への研鑽、さらには日本型看護診断の開発、といった未来へと発展していく看護診断を本大会に参加することで間近に、直接感じる事ができた。

学術大会での先生方の講演を聞くにつれ、看護診断についての興味がどんどん湧いてくるのを感じた。特に治療技術セミナー①口腔粘膜に対するケア技術では自身の臨床の経験を想起しながら、とても興味深く拝見することができた。

本学術集會に参加したことで診断一つ一つを正しく理解して使用していくことが、看護の共通用語としての看護診断を使用するための第一歩であることを深く認識することができた。



会期 **2020年11月29日**～**12月13日**  
※一部の講演は11月29日(日)のみにてLIVE配信いたします。

会場 **オンライン開催に変更となりました。**

大会長 **奥津 文子** (関西看護医療大学 看護学部看護学科 教授) 実行委員長 **神谷 千鶴** (関西看護医療大学 看護学部看護学科 教授)

オンライン開催への変更をお知らせするメッセージ動画が配信されました (9月)



## 国際交流委員会からのお知らせ

国際交流委員会 委員長 伊東 美佐江 (山口大学)

2020年に開催が予定されていたNANDA-Iの学術集会が新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行のため、延期となりました。現時点では、2021年6月15-18日にボストン市(米国)で予定されています。

## 学術活動委員会の活動について

学術活動委員会 委員長 佐藤 正美 (東京慈恵会医科大学)

本委員会は、看護系学会の相互交流と連携をはかり看護学学術団体の立場から国や社会に必要な提言を行う「日本看護系学会協議会」と「看護系学会等社会保険連合(看保連)」での活動を行っています。看保連は診療報酬の改定へ向けて、内科系学会社会保険連合(内保連)と外科系学会社会保険委員会連合(外保連)と合同声明を作成し発表しています。人々の健康を守る社会を作るには、学術的に根拠を示すことがいかに重要かを実感しています。

## 日本看護診断学会研究助成のお知らせ

研究助成選考委員会 委員長 滝島 紀子 (川崎市立看護短期大学)

日本看護診断学会には、日本における看護診断を発展させ、看護の質の向上を図ることを目的とした「研究助成制度」があり、50万円を上限として研究費を助成します。申請手続きを行う際は、A4サイズで「研究助成申込書」「研究費支出計画書」を作成し、日本看護診断学会事務局に送ってください。申請する研究は、看護実践において、普段、取り組んでいる看護診断に関するものであればどんな内容でも結構です。次に、助成を受けた場合のお願いですが、助成を受けた場合は、研究成果を日本看護診断学会学術大会で発表していただくとともに学会誌へ投稿・掲載していただくことになります。これは、研究成果を他施設にも知っていただき、他施設の看護の質の向上も図っていくという研究成果による社会貢献を目的としています。2021年度の申請締め切りは2021年8月末です。皆様からの研究助成への応募をお待ちしています。尚、詳細は、日本看護診断学会ホームページ<http://jsnd.umin.jp/>をご覧ください。

## 論文を募集しています！

編集委員会 委員長 佐々木 真紀子 (秋田大学)

編集委員会では、看護診断に関する未発表の原著、総説、研究報告、実践報告、事例報告、資料の論文を随時、募集しています。特に、提出期日はありません。投稿された論文は、速やかに2名の査読者に論文査読をお願いし、早期掲載をめざしております。論文の種類については、以下のように取り決めてあります。

【原 著】：研究論文のうち、独創性が高く、新しい知見が論理的に示され、研究論文として形式が整っているもの

【総 説】：特定のテーマについて、知見を多角的に概観または文献を展望し、総合的に概説したもの

【研究報告】：研究論文のうち、内容・論文形式において原著論文におよばないが、研究としての意義があり、発表の価値が認められるもの

【実践報告】：看護実践・教育の向上、発展に寄与し、発表の価値が認められるもの

【事例報告】：事例を通じて、看護実践・教育の向上、発展に寄与し、発表の価値が認められるもの

【資 料】：看護診断に貢献する資料他

看護実践の貴重な資源となりうる論文の投稿を心よりお待ちしております。

編集委員／佐々木真紀子、中嶋智子、菊地由紀子、曾田陽子、佐藤美紀

### 入会のご案内

本学会は適切な看護を行うために看護診断に関する研究・開発・検証・普及並びに会員相互の交流を推進し、同時に看護診断に関する国際的な情報交換や交流を行うことによって看護の進歩向上に貢献することを目的としています。是非、多くの方々のご入会をお待ちいたしております。ご入会に関しましては私共のホームページ(<http://jsnd.umin.jp/>)入会申し込みよりオンラインにてお申込みくださいますようお願い申し上げます。

入会手続きに関するご不明点は 日本看護診断学会事務局

TEL:03-3352-6223 E-mail:jsnd@convention-access.comまでご連絡お願いいたします。